



## 吉野せい賞表彰式 6日、秋吉さん講演

心平記念館

農民作家で知られる、吉野せいさんの功績をたたえて制定された「吉野せい賞」の表彰式・記念講演会Ⅱポスター下Ⅱは十一月六日午後、小川町の市立草野心平記念文学館で開かれる。



今回の講演会の講師は、俳優の秋吉久美子さん。いわき市育ちの秋吉さんは、一九五四年生まれ、磐城女子(現・磐城桜が丘)

入場希望など詳しくは、市の文化スポーツ室文化振興課(電話二二一七五四四)まで。

## 『言論統制というビジネス』 小名浜出身、里見さん発刊

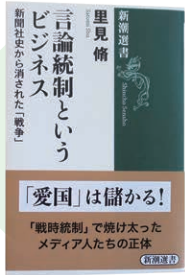


里見さん

千五百五十円、新潮選書刊)を発売Ⅱ写真左Ⅱした。市内の書店で発売中。

里見さんは、磐城高校、早稲田大学を経て、時事通信社に入社。八〇年代後半から九〇年代初頭にかけて、英国・ロンドン特

小名浜出身で元時事通信社記者の里見脩さんがこのほど、満州事変から太平洋戦争敗戦までの新聞メディア報道などに関する「事実」を詳細にまとめた『言論統制というビジネス』(四六判・約三百ページ、税別



高校卒。俳優として映画や歌手、さらには詩人として活動する傍ら、東日本大震災後は、いわき地区でボランティア活動などにも励んでいる。

入場希望など詳しくは、市の文化スポーツ室文化振興課(電話二二一七五四四)まで。

## 米の相馬屋 各地の新米を 入荷、販売中

小名浜、お米の専門店「相馬屋」(佐藤守利社長)は、各地の新米を大量入荷、販売。十月下旬には、各地区から今年の新米が出そろった。

同店のイチオシは、今秋から



倉庫には、精米された各地区の人気米がズラリ

本格的なデビューを迎える「福笑い」。福島県が十四年をかけて開発したオリジナルのトップブランド米で、厳しい検査基準を満たした「最上位品種」。

そのほか、例年通り人気の「いわきライキ」をはじめ、山形産「つや姫」、会津産「コシヒカリ」、新潟・山形産「ミルクキクイーン」なども店頭に並ぶ。

同店では、年間を通じて一定の温度と湿度の管理をする低温倉庫を完備。食品衛生管理の国際基準である「HACCP(ハサップ)」に基づき、安全安心な米の提供に努めている。

佐藤社長は、「他の食品が軒並み値上がりしている中、今年の新米は豊作で品質も良く、値段も下がっている。おいしい新米を楽しんでいただければ」と、話している。

詳しくは、同店(電話七三二〇〇七八)まで。

## ウィンターギフト

### オーシャンで販売中

小名浜オーシャンホテル&ゴルフクラブなどを運営する、アコーディア・ゴルフは、ウィンターギフトを販売中。

商品は宮城、秋田県など東日本地区、兵庫や熊本県など西日本地区のご当地グルメ、年末年始用のおせち料理、鮭、数の子、鍋物に加え、魚介類、肉、スイーツ、果物まで全国から選び抜いた各種逸品が並ぶ。

特典も設けており、例えば、十一月二十一日までの早期注文には、ソフトドリンクチケットのプレゼントなどがある。

詳しくは、問い合わせ窓口(電話〇二二〇一九七六一七〇)まで。

## 『メディアに一石』

帰国後、政治記者として活動していたが、特派員時代に「欧米記者との交流を通じて日本メディアの特性に気づかされた」(同書から)こともあって退社、東大大学院でメディア史研究を続ける傍ら、同大の社会情報学の博士号を取得した。

同書は十三章から構成され、戦時期の軍部と警察、新聞の自由報道の制限に関する、攻防、全国紙、地方紙の統制、統合問題なども細部にわたって掲載。また、同書の帯には「愛

国は儲(もう)かる!」「戦時統制で焼け太ったメディア人たちの正体」と、当時の現状を強調。

「営利に走り、本質を失った報道」。当時、そして現在も権力とのなれ合いなどが垣間見えるメディアの在り方に一石を投じるとともに、関連業界を指す後進、さらには一般にとっても貴重な一冊になっている。

里見さんは鎌倉に在住。大妻女子大教授などを経て、現在は同大で人間生活文化研究所特別研究員。著書も多い。小名浜の丸浜運輸社長、里見潤さんの実兄。本誌の新年一月号から「故郷(いわきⅡ小名浜)」に関し、の思いを二ページにわたり執筆の予定。